

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LESSON 4 授業例①

A.M. 先生

指導計画表

(全7時間)

時間	学習内容・主な活動
1	GET 1 (pp.44-45) ・ 文法表現の導入〈複数形〉 ・ Drill Practice
2	GET 1 (pp.44-45) ・ 文法表現の復習 ・ Word Corner ・ 本文の導入・理解 ・ 新出単語, 本文内容理解
3	GET 1 (pp.44-45) ・ 本文の復習 GET 2 (pp.46-47) ・ 文法表現の導入 ・ 〈How many~?〉 ・ Drill Practice
4	GET 2 (pp.46-47) ・ 文法表現の復習 ・ Word Corner〈色〉 ・ 本文の導入・理解 ・ 新出単語, 本文内容理解
5	GET 2 (pp.46-47) ・ 本文の復習 GET 3 (pp.48-49) ・ 文法表現の導入〈命令文〉 ・ Let's の文 ・ Drill Practice
6	GET 3 (pp.48-49) ・ 文法表現の復習 ・ Word Corner〈体〉 ・ 本文の導入・理解 ・ 新出単語, 本文内容理解
7	GET 3 (pp.48-49) ・ 本文の復習 ・ 文法の要点 (pp.50-51) ・ 本文内容理解

実践例

1. 単元を指導する前に

単元を指導する前に、私はいつも以下の2点に着目し授業に臨むようにしている。1つ目は、文法項目(教科書ではPOINT)である。そして2つ目は、本文の内容の理解である。この2点を生徒たちにいかに理解させていこうかと四苦八苦しながら授業案を組み立てている。

2. 単元について

①文法項目(POINT)について

LESSON 4では、5つの文法項目がある。

名詞の複数形については、日本語では表現しないことが多く、理解しにくいと考えられる。しかしながら形がsまたはesをつけるだけと単純であるため、How many~?の文と合わせて口頭練習を多く行い、その形に慣れさせ、定着させる。また命令文やLet's~の文も文法構造的に簡単で、日常使いやすい表現なので、1年生として自己表現を広げていくという観点から以下の5点は大切な文法項目であると考ええる。

- ア. 複数形・・・sやesのつけ方について
- イ. 数のたずね方・・・教室内の生徒数/ 筆箱内のペンの数(色も含む)
- ウ. 肯定の命令文・・・Sit down. / Wake up.
- エ. 否定の命令文・・・Don't mind. / Don't smoke.
- オ. 命令文 Let's・・・Let's go. / Let's play Bingo.

ア) について

上記の通り、日本語では表現しないことが多いため、定着させにくい。私は導入時に、日本語と英語の違いを比較させるために、以下のような板書を行っている。

- 板書)
- I have three pencils.
- A「私は3本鉛筆を持っています。」
- B「私は3本鉛筆s(ズ)を持っています。」

Aの日本語訳にあるように、日本語では数に関係なく鉛筆に複数形のsをつけないが、Bの日本語訳

ではわざとsをつけた文章を書いた。そうすることでBの文章は変であることを理解させ、日本語と英語の文の違いを視覚的に捉えさせ、声に出して読ませることで意識させるところから始めている。

複数形を作ることは英語の名詞の後ろにsやesをつけるだけの単純作業である。しかし、注意しなければならないことは発音との関係である。私は、複数形の名詞(フラッシュカードで作成)を見せながら何度も声に出させ、繰り返し読ませている。発音記号などによる説明は日を改めて行うようにしている。そして、書く作業(プリントや副教材)では、黙って書かせるだけではなく、声に出しながら書かせている。

イ) について

How many ~?を使って、数の聞き方及び答え方を指導している。ピクチャーカードを使って、最初に生徒たち(ここでは3人とする)の持っているものを数点英語で説明を行う。例えば、You have three pens. You have a bag. You have two notebooks. と言って、生徒たちの反応を見る。(難しそうならもう少し、英語で説明を行う。)次に、同じ生徒3人にDo you have three pens? Do you have a bag? Do you have two notebooks?と質問を行う(時にはNoで答える質問も入れる)。生徒が答えられるかどうかと、全生徒の反応を見て状況を確認する。(難しそうなら、もう少し別の質問を行う)

次に、同じ生徒にHow many pens do you have? How many bags do you have? How many notebooks do you have?と質問をする。その際に、その生徒の「ペン」や「カバン」や「ノート」を持って質問を行う。そうすることで、視覚的にも情報が入るのでわかりやすい。その後、プリント(資料1)を使ってペアワークを行う。

更に色の指導では、教科書に載っている色を使う。質問としては、What color is it?の表現を使い、答え方はIt's~.で答える指導を行う。教室内の物をたくさん使って練習をする。次に行くことは、Touch something red.の表現を使って、生徒一人一人がそれぞれの色の物に触れているかを確認する。また、

命令文の導入としての表現でもあるので、意味を理解させていくことも忘れないようにする。

ウ) について

授業の最初や最後に、号令(Stand up.や Sit down. など)をかけている。何度も行うことで生徒たちもその動作を行うようになった。言葉話すだけでなく、ジャスチャーを取り入れることでわかりやすくなる。上記の文が命令文であることを説明し、他の例を出し、生徒全員で私の言葉の後に、その動作をさせている。例えば、Look at the clock. や Open your textbook. などである。

慣れてきたら、今度はペアになり、お互いに質問したい文を考えさせる。そしてジャンケンを行い、勝った生徒は負けた生徒に命令文を言い、負けた生徒はその動作をする。その動作が正しいかどうかの確認を、勝った生徒が行う。更に、体の部分の名前も練習し、Simon says を行い、覚えさせる。教科書にはないが、命令文で指示された時の答え方についても表現練習をさせている。例えば、承諾の場合：OK. / 断る場合：I'm sorry, but I can't. などである。

エ) について

ウの命令文(例えば Stand up.)を使い、生徒に動作をさせる。その後、一旦座らせ、今度は Don't stand up. と言い、生徒の反応を見る。もちろんジャスチャーも交える。更に、Don't open your textbook. や Don't hold your pen. などの表現を使い、生徒の理解へとつなげていく。板書では、クラスに野球部の生徒がいたら、その生徒に必ず質問を行っている。

以下が私と生徒との対話の一部である。

私：「『ドンマイ』ってどんな意味ですか？」
 生徒：「気にするな、かな？」
 私：「そうです。これは英語の『Don't mind.』なんです。」

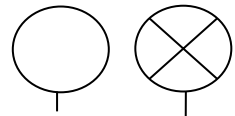
と言うように生徒が聞いたことがあるような英語のフレーズを探し、理解の一助としている。そしてこの後、命令文、否定命令文の問題プリント(資料2)を行い、書く練習をさせている。特に3の問題については、生徒は楽しく絵を描いている様子が毎

回伺える。ハンバーガーやドリンクの絵などを描いている生徒が多い。生き生きとしている姿が印象的である。自由に描き、それを英語で表現するところがアウトプットにつながると考えている。

【資料2】

プリント

1. 次の各文の意味を書きなさい。
Close the door. ()
2. 日本語文と同じ意味の英文になるように、語句を正しく並べかえなさい。
あなたの鼻を触ってはいけません。
(touch / don't / your nose /.)
3. 下の標識の中に、命令文になる絵と否定命令文になる絵を自由に描きなさい。
また、その英文も書きなさい。



オ) について

ここでは Let's~ の表現なので、Let's を使った文を生徒がどのくらい知っているかどうか、聞いてみる。そうすると、必ず生徒からは答えとして次の表現が返ってくる。「Let's go.」である。どんな意味なのかもよく知っている。その後は、別の表現を使っていくつか練習を行い、書く練習へとつなげる。

③各パート (GET) について

校外学習に行くための準備(買い物)から始まり、校外学習における鳥の観察、そしてキャンプ場での食事を終えて片付けをする3つの場面から構成されている。また、ここは環境問題にも触れているレッスンでもある。買い物の際にショッピングバッグを持ち運び、また、キャンプ場の場面では、食事後に食器を洗わずに、紙で拭いてそのまま家に持ち帰る、などといったことが書かれている。この点についても意識付けをさせるように指導を行う。

ア) 新出単語について

文法や会話練習と同じように、単語や本文の練習の最初は、書かせる前に、何度も声に出し練習させ

ている。単語はフラッシュカードを使って、repeat させている。(基本的に2回ずつだが、反応が悪ければ何度も繰り返させる)、また、そのカードをわざと横にしたり、逆さまにしたりしながら、飽きないように練習させている。次に、日本語の意味を確認させ、上記と同様に repeat (日本語→英語) させている。生徒一人一人を当てる場合に、答えることのできる生徒はいいが、出来ない生徒については英語の部分を一瞬見せず隠す(フラッシュカードなので)ようにし、答えさせている。(難しい場合には何度も上記のことを行っている。)

イ) 本文の内容理解について

教科書の各ページの絵や写真を見て、どんな内容の文が書かれているのかを想像させる。その一助としてオーラル導入を使って説明を行う。その時に必ず生徒に質問をしながら考えさせるようにしている。例えば、Part 1 (p.44) なら、以下のようにする。

Please look at P44. Who is he? (Ken.)
 Who is she? (Emma.)
 Where are Ken and Emma now? (Supermarket.)
 Does Ken have three tomatoes? (No.)
 What does Ken have? (Three potatoes.)
 Does Emma have a bag? (Yes.)
 Does Emma have a paper bag? (No.)
 What does she have? (A shopping bag.)

上記のように、生徒に対して質問をしながら、大枠としてどんな内容が書かれているのかを確認している。その際に、正確に文章として答えを求めるのではなく、単語でもいいのでどんどん言わせている。後で、文章として書く方法を説明するようになっている。日本語訳については、内容理解を助ける範囲で説明を行っている。

次に教科書本文の暗記をする。状況を見て、一気に覚えることができないような場合には、生徒一人一人に1行ずつ覚えさせるように指導している。次に2行ずつ覚えさせたり、また、最初の生徒は1行だけ、次の生徒は最初に発表した生徒の文と次の文の2つを暗記させ、発表させたりしている。途中発表でつまづいた場合には、連帯責任としてみんなにその行の文をノートに書かせている。生徒は、それぞれが一生懸命発表し、友だちが言えなかった場合

には、「えっ!」と言いながらも楽しんで英文を書いている。その他にも、オーバーラッピングやスピードリーディングや同時通訳(私が日本語を言った後、生徒が英語を言う)などを行っている。様々な形態で反復練習を多くし、基礎基本の定着に心がけている。

各パートがすべてできた段階で、単語及び本文が理解できているかの確認テストを行っている。

テスト

1) 次の日本語をすべて英語に書きかえなさい。

①これらは() ②かわいい()

2) 教科書 p.46 の内容に合うように下の質問に答えなさい。

①How many birds does Ken see?

Ken sees ()().

ウ) 教科書 pp.50-51 について

復習としてこのページを使用している。特に、some や any の単語については、新出単語なので少し時間を取って説明している。ノートやプリントを使って練習させている。

④最後に

最終的には、生徒の頭にいろんな方法を使ってインプットさせ、それを忘れないようにさせることが大事だと考えている。そのために、授業の最初には必ず前回の復習をさせるところから始めている。アウトプットについては、ALT の先生との英会話授業や、各文法や本文などを習った後に声に出して言わせたり、書かせたりしている。受け身の授業ではなく、時には生徒が自らの言葉で考え表現するような機会も必要になっていくと考えている。私がイギリスで2年間、日本人学校に勤務していた時に、現地の中学校を訪問する機会があった。その時にテストを見せてもらったが、日本で言う英作文が多く、自分で表現させるものが多かったことが印象的だった。その時に、インプットからアウトプットへつなげていく作業が必要であることを実感したのである。

ALT の先生との授業については書かなかったが、特に We're Talking などを使って表現練習をさせて

いる。また英語のゲームや外国の文化などに触れる機会としてもALTの先生を活用している。こういった活動も、楽しみながら英語を学ばせる良い機会になると思う。